

山の百名花

読者委員 甲申 珍子

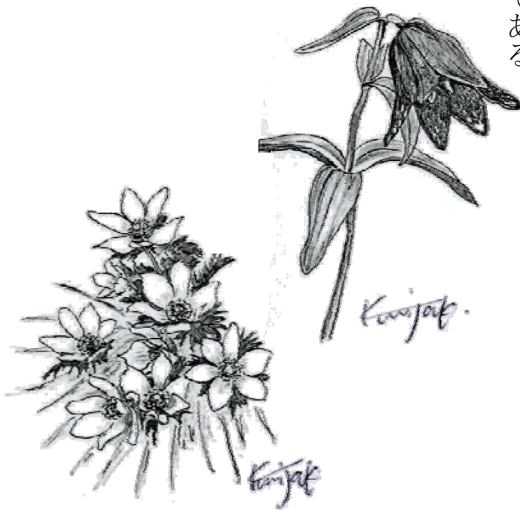
【29】ミヤマクロユリ

色も香りもあまり美しいとはいえないのに、出会えばいつも心おどるのがミヤマクロユリの花である。花弁は黒というより暗褐色で黄色いまだら模様があり、少し不気味な感じもするが、他の高山植物に混じって咲くこの花を見つけたときは、高山に来たことが実感できて無条件にうれしい。

「黒百合は恋の花」と歌謡曲に歌われるのは北海道の平地に咲くクロユリ（エゾクロユリ）で、高山に咲くミヤマクロユリとは染色体の数が違い、花屋でクロユリの球根として売られているのはこちらのほうだという。クロユリは花も草丈もかなり大きいですが、北海道の山にもミヤマクロユリはあって、これは本州のものより小型だというから話はややこしい。

私とミヤマクロユリの最初の出会いは、五十年前も前の雲の平であった。雲の平山荘も水晶小屋もなかったころ、私たち一行は人っこひとりいない雲の平の池塘の傍らに寝そべって、遠く光る黒部の源流を眺めな

がら半日過ごした。そのときに見た畳半畳分ほどのミヤマクロユリの群生は、花には興味が強かったそのころの私にとっても強烈な印象だった。その前々日、ブナダテ尾根のきつい登りでばてたのをきっかけに、その後三十年間も山に登るのをやめたこととあわせて、忘れられない思い出のひとつである。



【30】ツクモグサ（九十九草）

出会いが難しいという点では、ミヤマクロユリよりツクモグサのほうがずっと出会い難い花である。生育地が本州では白馬岳や八ヶ岳の礫地とか岩場に限られ、しかも雪がとけるとすぐに咲くので、一年中、山

の花を追いかけている植物写真家でも、花期をとらえるのが難しいという。図鑑を開くたびにいつかは見たいと思いつつ、私にとつてツクモグサは文字どおり高嶺の花であった。だから十年ほど前、遠足倶楽部で白馬岳から朝日岳へ縦走したときに思いがけなくこの花と遭遇したのは幸運というほかない。

その年は雪どけが遅く、七月末というのに春の花が咲き残っていて、猿倉雪溪から山頂まで、実に多くの種類の花を見た。翌朝、山頂を出て三国境の分岐を折れると、とたんに登山者の数が減って花の数が増える。雪倉岳に向かって礫地を歩いていくとき、ふと足元に緑があった淡黄色の、一目でそれとわかるツクモグサの花を見た。あつけないともいえる出会いだつた。

その日はそれから登山道の右に左に次々と咲き始めたばかりのツクモグサが現われ、みんな立ち止まっては何度もシャッターを押したが、私は眺めるだけで満足した。あの花の他に類を見ない微妙な色あいと、同属のオキナグサに似た美しい花形は、今もしつかりと私の脳裏に焼きついている。